

農業用ため池を活用した洪水調節機能強化の取組 佐賀県(武雄市北方町)

【取組内容】

ため池下流地域の度重なる浸水被害を受け、佐賀県、関係市町、ため池管理者によるため池の洪水調節機能の活用に係る検討会を実施し、令和3年度より代掻き後の7月から11月までの間に低水管理を行い、総貯水容量の約4分の1を空き容量として確保する取組を実施中。

さらに、令和4年度から農業水路等長寿命化・防災減災事業によりため池下流域の内水被害の軽減を図る放流設備等の整備を実施中。

【取組に至った経緯】

近年の気候変動に伴い激甚化・頻発化する豪雨に対して浸水被害を軽減するため、平野全域でのさらなる減災対策の取組が必要となっている。

【取組む際に生じた課題と対応】

ため池の水位低下を行うには、既存の斜樋施設のみでは放流に時間を要しているが、早急に水位低下を図る放流設備がなく、効果的な水位低下が図れていなかった。

このため、農業水路等長寿命化・防災減災事業による緊急放流設備の整備により、早期放流が可能となる見込み。

【取組の成果】

整備予定の緊急放流設備と併せ、水位計等観測機器や遠隔監視装置の整備により、的確で円滑な放流操作が可能となるとともに、大雨前の事前放流及び貯留能力の早期回復が可能となり、浸水被害の軽減が図られる。

【今後の展望】

本地区の取組が一定の効果を発揮し、その他のため池においても同様の取組が行われるようになり、一般住民の避難行動の目安や大雨時の貯留容量の確認に活用されることで、今後の流域治水に寄与したい。



令和3年8月豪雨時の浸水状況



焼米ため池緊急放流施設計画図

ため池の洪水調節機能強化の取組事例(武雄市北方町)